



いきいきファーマーだより 第78号

平成27年4月15日 益田市農業担い手支援センター発行
益田市ホームページアドレス
<http://www.city.masuda.lg.jp/>

1. 行事スケジュール

- 1. 行事スケジュール
 - 2. お役立ちなんでも情報
 - 3. 紹介コーナー
 - 4. 益田市認定農業者連絡協議会からのお知らせ
 - 5. 農業技術センターからの情報提供
- ◇◇雑談コラム◇◇

月日	イベント名	会場・時間
4月17日(金)	トマト初出荷式	場所：飯田選果場 時間：8:15～
4月22日(水)	ぶどう出陣式	場所：ぶどう集荷所 時間：8:00～
4月23日(木)	認定農業者連絡協議会総会	場所：市民学習センター 時間：17:30～

2. お役立ちなんでも情報 ～各地イベント・情報提供～

平成27年産のゲタ・ナラシ対策に加入しましょう！！

27年産から対象者要件が替わります！

「畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）」及び「米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）」の交付対象者は、**27年産から認定農業者、集落営農、認定新規就農者**であればよく、いずれも規模要件はかかりません。担い手の方が幅広く参加できるようになります。

まだ認定農業者等になっていない方は、**27年産の加入申請期限（27年6月末）**までに、集落営農を組織して参加していただくこと等が必要です。お早めに準備をお願いします。

人・農地プラン実施状況について

全国では、高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加などで5年後、10年後の展望が描けない集落・地域が増えています。集落・地域が抱える「人・農地の問題解決」のため、集落・地域における話し合いによって、解決していくための手法として「人・農地プラン」の作成を行いました。

益田市においては、開発地を含め34地区のプランを作成しています。プランには、今後の中心となる経営体（個人・法人・集落営農）はどこか、中心となる経営体へどうやって農地をみつめるか、など掲載する事となっています。

このプランを活用しながら地域での話し合いが進み、「人・農地の問題解決」がされるよう取り組んでいくこととしています。

認定農業者の再認定（更新）の認定申請について ～平成22年度認定の56名が該当します！～

認定農業者には、5年間の認定有効期限があり、更新を希望される方は、申請書（農業改善計画申請書）を提出していただき、再認定のための審査を受けていただきます。

今年度は、平成22年度に認定を受けた方が対象となり、全認定農業者122名中56名の方が該当します。再認定を希望される方には申請書（農業改善計画申請書）の作成のために聞き取りをさせていただきますが、今年度は該当者が多いため、有効期限日の数ヶ月前から作成作業を開始します。お忙しいとは存じますが、聴き取り等へのご協力をお願いします。

- ※ 申請書の作成のため、該当者の方には、現状の農業所得や労働時間、各作物の作付面積に加え、5年後の作付目標、計画等を伺います。ご準備をお願いします。
- ※ 再認定を辞退される方につきましても30分程度お時間を頂戴し、近況をお聴かせいただきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

認定農業者経営改善計画聞き取り調査のお願い

認定農業者の方には、5年間の認定有効期限の中間年（3年目）に於いて、状況調査を実施しています。今年度は、平成24年度に認定を受けた方が対象となり、昨年度聞き取りを実施することのできなかった平成23年度認定の一部の方を含めた20名の方が該当します。

お忙しい時期ですが、30分程度お時間を頂戴し近況をお聴かせいただきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

3. 紹介コーナー

新たに認定された認定農業者のみなさん

・合同会社 アグリ米ブリッジ

会社名である「アグリ米ブリッジ（経営主：藤井 強志さん）」の由来は、米を通じて生産者から消費者の皆さんへの架け橋、農業の未来への架け橋を築くという願ひが込められています。白上町の平坦地に位置し、26年度よりつや姫マイスターとしてつや姫の栽培にもアクティブに取り組んでおられます。27年産で水田面積約21.0haを作付予定（つや姫以外も含む）で、水稻を中心とした農業を企業として維持発展して行くことが、地域農業の維持に寄与できるという信念のもとで毎日奮闘しておられます。

・山本 猛さん

柿原地区では、平成25年から県営の圃場整備に取り組み、平成27年から水稻の作付けができるようになりました。集落では圃場整備に合わせ集落営農の設立の話し合いもありましたが、山本さんが認定農業者となり、地域の農地を集積し、規模拡大を行いながら営農をされることとなりました。山本さんは、小野、赤松地区でも圃場の集積を図っておられます。

「家族、地域の人と出来る事を分担・協力し、実りある水稻栽培等に努めます。」(山本わくわく農園1号 山本 猛)

・竹内 辰穂さん

滑集落協定の代表として、地域の皆さんと農地を守ってきましたが、高齢化や先般の米価下落により、地域に農地の耕作放棄地が増加することを懸念されており、何とか農地の維持に努めたいとの思いから、水稻の規模拡大を行い耕作放棄地の解消を図る事としておられます。

現在の経営の中心は、ぶどうですが、地域の皆さんと話し合いをしながら規模拡大を進めていく予定です。

・椋木 猛さん

自営で機械修理の仕事をしながら、美濃地区の農地の集積を図ってこられ、現在、6.5ha水稻を耕作されています、今後も可能な限り農地の集積をして規模拡大を図りながら、作付けのバランスを考え、経営の安定を図っていく予定です。将来的には、後継者として、お孫さんが継いでくれるようがんばっていきたいと言っておられます。

・吉村 恭司さん

吉村さんは現在、東部開パイでメロンのほか、葉物野菜などの施設野菜や露地野菜を中心とした営農を行っておられます。今後は自宅周辺の農地で、アスパラガス等の新たな作物を作付し規模拡大を図ると共に、地縁者を中心とした雇用を創出、所得確保を図られる予定です。益田市の農業、特にメロンを支える担い手としての活躍が期待されています。

・吉村 太さん

水稻と麦を中心に経営されています。団地化による作業の効率化、農薬栽培法による高付加価値生産の追求、おいしい米及び麦の生産のため土づくりの推進、乾田直播技術の導入による作業の省力化及び低コスト化を図っていく予定です。また現在、公的機関からの農産物に対する認証をもらっていませんが、今後は生産過程をGAPに則った栽培を行い、「美味しまね」認証取得を目指される予定です。

若手農業者を集め経営力アップ研修会を開催しました

1月29日に益田市内の若手農業経営者（農業経営を始めて10年程度の経営者）に呼びかけ、

若手経営者が日頃感じている経営に関する課題や不安の解決を図るなど経営力向上を目的とした研修会を開催しました。

当日は、11人が出席して、先輩経営者による講演とグループインタビュー形式による意見交換を実施しました。

講演では、有限会社佐々木農場 佐々木一郎社長（講師先生）から「経営者としての心得」を伝授され、意見交換では、「技術」、「収益」、「労働力」、「規模拡大」の4つをテーマとし、短い時間の中でしたが真剣な討議が行われました。

研修会終了後、参加者からは、「内容が良かった。」、「本音の部分が聴けて良かった。」などの評価とともに、「参加者同士の交流が図れた。」、「講師先生と関係づくりができた。」など経営者同士の繋がりをつくるよい機会となり有意義な研修会となりました。

担い手支援センターでは、今回、聴くことができた経営者の「声」を分析し、これまで以上に、農業経営に必要な知識や技術を必要な時に提供、支援できるよう継続した取り組みを行っていく予定です。



写真 講演会及び意見交換の様子（左：佐々木社長講演、右：グループインタビュー）

平成26年度西部地区肉用牛振興大会が開催されました

3月5日、石西地域農林振興協議会と浜田地方農林業振興協議会の共催で、西部地区肉用牛振興大会が開催されました。

JAしまねの畜産振興体制や、西部子牛市場の動向及び第11回全共に向けたスケジュール等について、関係機関から情報提供がされた後、「和牛子牛の低コスト生産と生産振興」をテーマとして、パネルディスカッションが行われ、放牧や自給飼料確保対策などについて、活発な意見交換が行われました。



4. 益田市認定農業者連絡協議会からのお知らせ

認定農業者連絡協議会総会を開催します

平成27年度益田市認定農業者連絡協議会通常総会を下記のとおり開催します。ぜひ多くの会員の皆様にご出席いただき、活発なご意見をいただければと思います。尚、やむを得ず総会に欠席される方は、FAXまたは郵送にて委任状（別紙）を提出してください。

日時：平成27年4月23日(木) 17：30～

場所：益田市立市民学習センター 多目的ホール1F(多目的ホール)

※ お車でお越しの方は、市民学習センター駐車場または市役所駐車場をご利用ください。

※ 総会終了後、懇親会を予定しております。多数の方のご参加をお待ちしております。

場所：玄海 [19：00～] 会費：3,000円

益田市・鹿足郡認定農業者合同研修会を開催しました

1月21日に津和野町日原において、初の試みとして、益田市と鹿足郡（津和野町、吉賀町）の認定農業者が参集した合同視察研修会を開催しました。これは、一昨年、益田市認定農業者連絡協議会が行っていた市内認定農業者相互視察研修を拡充する形で、益田市農業担い手支援センターから津和野町、吉賀町の各認定農業者組織へ開催を提案しましたが、開催直前に発生した津和野町の集中豪雨災害により開催が延期となったため、1年越しの実現となりました。

当日は、両地域から約30人の認定農業者が参集し、津和野町日原の認定農業者2戸と津和野町が整備を進める加工冷凍施設を訪れ、それぞれの取り組みについての理解を深めました。また、研修後、参加者からは「すごく新鮮に感じた。」、「大変参考となった。」、「続けて開催して欲しい。」などの意見が聴かれ、研修会は盛会の内に終了しました。

今後は、1年おきに主催が交代し、今年度は益田市での開催が決定しています。



写真 津和野町内認定農業者視察の様子

中澤さかな氏を招き「地域特産品の開発・販売マーケティング」講演会を開催しました

2月9日に、道の駅萩しーまーと 駅長 中澤さかな氏（中澤 等氏）を招き、地域資源を活用した特産品の開発と販売について、マーケティング手法と同氏が全国で手掛けた事例を講演いただき、具体的な方法について理解を深めました。

当日は、協議会員など23人が参加し、全国でも先進的な取り組みの中で蓄積された技術・手法を修得し、自経営の販売に活かそうと熱心に講演に耳を傾けていました。

参加者からは、「見向きもされない、忘れていたものに焦点をあてる大切さを学び大変参考になった。」や「地域資源を資源としてみてないことを思い知らされ、目から鱗が落ちた思いだった。」などの感想があり、今後はマーケティング手法に関する専門知識を深めていく必要性も明らかとなりました。

また、今回の講演会は、益田市認定農業者の経営力向上の一環として開催されましたが、現在、



益田市の「道の駅」構想の参考になればと、益田市議会（益田市議会農政研究会）にも参加を呼びかけ、知識の共有を図ることができました（市議3名が出席）。

今回の講演会を契機に、さらにマーケティングへの関心が高まり、皆さんの経営で活かせるよう、今後も研修会などを企画し、地域特産品の開発・販売に関する勉強会を開催する予定です。

写真 講演会の様子

5. 農業技術センターからの情報提供

昨年度から当コーナーで試験研究情報をお伝えしていますが、今年度も情報提供を行いますのでよろしくお願いいたします。

今年度最初は「有機育苗培土の作成は窒素量の確認を！」という話題です。有機栽培では育苗培土にも有機培土を用品ですが、市販の有機栽培用育苗培土を無施肥で果菜類の育苗に用いると苗の生育停滞や初期収量の低下が見られました。そこで、落ち葉堆肥と田土を混合し、自家製発酵肥料を加えた試作培土を用いてキュウリの育苗をしたところ、苗の生育は市販有機栽培用育苗培土より優りました。そのため、培土中にはある程度の窒素の添加が必要と考えられました。今後は作目や作型にあった培土の作成を検討します。

このほかにも当センターでは、様々な試験研究・普及活動を行っていますのでお気軽にお立ち寄りください。

（農業技術センター 稲田）

益田農業担い手支援センター メンバー紹介

転出

- ・益田市 産業経済部 農業振興課 主任 田原 正紀

平成24年4月から3年間大変お世話になりました。担当は替わりますが、引き続き農業振興課でがんばります。今後ともよろしくお願ひします。

新任

- ・益田市 産業経済部 農業振興課 農業担い手支援センター 主任主事 高橋 孝輔

この度、課内の業務異動により振興係から農業担い手支援センターにまいりました高橋です。田原の後任として新規就農者支援業務を中心に担当しますので、よろしくお願ひいたします。

- ・西部農林振興センター 益田事務所 益田北地域振興課 課長 吉野 克仁

26年ぶりに益田の農業改良普及事業を担当することになりました。当時は農業改良青年会議の担当していました。その時のメンバーの多くが、今の益田地域農業の中核を担っている状況を大変頼もしく思っています。地域農業の力になれるよう、頑張っていきます。よろしくお願ひします。

- ・西部農林振興センター 益田事務所 益田北地域振興課 農業普及員 伊藤 俊輔

平成27年4月1日付の人事異動で農業担い手支援センター（認定農業者）担当になりました伊藤です。農業普及部ではブドウを担当することになりましたのでよろしくお願ひします。

◇◇雑談コラム◇◇

益田に来て3年目の春がやってきました。このほど益田市内に空き家を見つけ、家族で引っ越すことになりました（賃貸ですが・・・）。庭にはレンギョウ、ユキヤナギ、桜と春の花が満開です。びわの大木があり、子供達と収穫するのが楽しみです。掃除が大変そうですが、益田での暮らしを満喫したいと思います（H. K）。